

第2回木曾川下流部広域避難実現プロジェクトを開催しました

伊勢湾台風を超えるような大規模水害が生じた場合、ゼロメートル地帯が広がる木曾三川下流部では、洪水、高潮による広域的、長期的な浸水が想定されます。そのような状況においても犠牲者ゼロの実現を目指し、8市町村（桑名市、木曾岬町、海津市、弥富市、愛西市、津島市、蟹江町、飛島村）の首長が地域住民の防災意識向上や広域避難などの必要な取り組みについて公開でディスカッションしました。

伊勢湾台風を経験された首長からは当時の体験談が語られました。また、犠牲者ゼロを実現するには早めの避難行動が必要不可欠であり、避難意志がない住民、防災意識の低い住民の意識をいかに高めていくかが重要などの意見がありました。

日時：平成29年6月3日（土）14:00～16:00
会場：NTNシティホール（桑名市民会館）
出席：木曾三川下流部沿川8市町村長
アドバイザー：片田敏孝 東京大学大学院情報学環特任教授
コーディネーター：木曾川下流河川事務所長
プログラム：ディスカッションテーマ

第1部

『伊勢湾台風の教訓をふまえ、地域住民の防災意識向上のために何をすべきか』

第2部

『激甚化・広域化する災害に対して、広域避難を実現するために何をすべきか』

来場者：約300人



公開によるディスカッション

アドバイザー



片田敏孝
東京大学大学院
情報学環 特任教授

片田敏孝
東大特任教授

第1部プロジェクトメンバー



左より、加藤木曾岬町長、服部弥富市長、
横江蟹江町長、久野飛島村長

第2部プロジェクトメンバー



左より、伊藤桑名市長、松永海津市長、
日永愛西市長、日比津島市長



関連パネルの展示